

第84回麻布獣医学会 一般演題17

猫の慢性腎不全に対し血液透析を実施した3例

京谷 一未¹, 田中 宏幸², 大西 徹秀³, 小嶋 一矢⁴, 柴崎 哲⁵¹きのくに動物病院, ²イワタ動物病院, ³おおにし動物クリニック,
⁴小島動物病院, ⁵東京農工大学

[はじめに]

血液透析(HD)は、体外循環回路を用い血液透析器(ダイアライザー)を介して体内の老廃物や毒素を短時間に効率よく除去できる血液浄化療法である。現在、小動物医療においては、透析プロトコルが確立しておらず、外科的処置を必要とする回路接続(ブラットアクセス)が煩雑であることなどから、犬や猫の慢性腎不全の治療に対し積極的に実施されていない。

今回我々は、慢性腎不全(IRIS分類Stage III~IV期)と思われる猫に対し、間歇的にHDを実施することで良好に病態維持ができていたので、その概要を報告する。

[材料および方法]

症例1は、雑種猫、6歳齢、雄、体重5.4 kg。H19. 2. 5に元気消失、食欲廃絶を主訴に来院し、血液検査、超音波検査にて腎不全(Stage II)と診断した。静脈および皮下点滴等の治療をしていたが、病態改善に至らないためHDによる治療を実施した。

症例2は、雑種猫、15歳齢、雄、体重4.5 kg。H17. 6. 25に元気消失、食欲廃絶、嘔吐を主訴に来院し、静脈および皮下点滴等の治療をしていたが、病態改善に至らないためHDによる治療を実施した。

症例3は、パルシャ、17歳齢、去勢雄、体重2.3 kg。H15. 1. 10より腎不全(Stage II)の治療を継続していたが、H17. 8. 17より病態が悪化し、点滴治療に反応しなくなったためHDによる治療を実施した。

HDは、動物用血液透析システム(NBM-1000:

泉工医科工業(株))、ダイアライザー(MCA-0.05L:同)、透析回路(S-5:同)、血液透析液(リンパックTA3:ニプロ(株))を用いた。ブラットアクセスは、脱血側は外頸静脈、送血側は橈側皮静脈あるいは外頸静脈に経皮的に留置針(22G×2又は20G×2)を刺入することで設営した。HDは、全身麻酔下にて約60分実施(2~2.5 ml/kg/min)し、その後6~7時間間隔で合計3回を1クールとして実施した。

[成績]

症例1は2年間で11クール、症例2は2年間で7クール、症例3は1年間で3クールのHDを行った。各症例とも血液透析後は速やかに全身麻酔より覚醒し、食欲も改善し、一般状態も良好であった。HDは、動物の一般状態や血液検査の結果から、平均2~3ヶ月に一度実施することで良好な経過が得られた。HD前後の血中尿素窒素、血清クレアチニン、血中無機リンの除去率は、20~30%と良好な結果が得られた。

[結論]

猫の重度な慢性腎不全の治療としては、皮下または静脈点滴、食事管理、経口吸着剤、血圧降下剤などの薬物療法が主な治療とされているが、今回、設置した透析回路装置およびプロトコルは、猫において約60分のHDが安全に実施できると考えられ、さらに、一般的な治療により病態改善が認められない猫の慢性腎不全症例のQOL改善およびその長期的な維持が期待できるものと考えられた。